2026/10/26

＜白金標準、強気相場は悲観の中で生まれる・・＞



（出所：オアシス）

エヌビディアが出資する人工知能（AI）向けクラウドサービス大手コアウィーブの下落に始まり、世界の 65%が使われているプログラミング言語「PHP」の脆弱性が表面化し、世界各国のホームページや金融機関、ネット販売など不都合な攻撃に備えた修正を余儀なくするなどリスク逃避の動きが強まると、投機市場から資金が流失するなど白金価格は下落している。特にフランスにおける財政懸念や政情不安から 2002 年 7 月以来、フランス 10 年債金利は 5%まで上昇するなど、欧州通貨のユーロは対ドルで下落を続け、白金価格を押し下げている。そのため今年 7 月に付けた安値 7714 円を下回ると週末には 7529 円まで売り込まれている。しかしメタルズフォーカスは「2026 年の工業用プラチナ消費量は、主に AI 関連の投資に支えられて増加すると予測されている」と「プレシャスメタル・ウィークリー」に記載し、また広州先物市場のプラチナ取組高は 10 月に入り 16828 枚から 20317 枚へ増加し、NY マーカンタイル取引所の指定倉庫のプラチナ在庫は 20 トンから 7.8 トンまで低下するなど、反転に備える動きを見せだしており、白金標準先物の 8000 円割れは、バーゲンハンターから見ると非常に魅力的な価格になると思える。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では MACD が切り下げ、シグナルは下げている。RCI では短期が切り上げだし、長期は維持している。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジから乖離した状態であり、自律反発の動きに備えるのが妥当に思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,540,000 円（2026 年 10 月 26 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 86,900 円（2026 年 10 月 26 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-5540-8423 （受付時間：平日 8:30～17:30）

証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp